

北斎 *Katusika Hokusai* と

シーボルト

Philipp Franz Balthasar von Siebold

「国境なき旅人」





北斎が寛政11年頃(1799年)に描いた**版画「長崎屋」**は、店の中で話し込んでいる西洋人と、店の外から中をのぞいている江戸の市民が描かれている。そして当時の「長崎屋」は店主は代々**長崎屋源右衛門**(ながさきやげんえもん)と呼ばれ、**江戸日本橋本石町に存在した薬種問屋**で、薬の販売以外に旅館を営んでいた・・・

当時、文政年間(1818～1830年)に長崎出島のオランダ商館長(**カピタン**)は、4年に1度の**江戸参府**が義務付けられ、長崎より江戸の将軍に拝礼するオランダ使節一行は**江戸で「長崎屋」を定宿**としていた。そして多くの江戸市民や野次馬など、特に平賀源内、前野良沢、杉田玄白などの蘭学者や医者がここを訪れ、オランダ人と情報交換を行っていた。おそらく北斎も幾度か訪れ、それを絵にし、かつ、西洋の情報を入手していただろうと思われ、そらく「長崎屋」は江戸での西洋の情報発信基地のようなものだったのではないかと考えられる。しかも最近の研究では、商館長が北斎に江戸の風景や人々の日常風景などを題材にした**浮世絵を注文**し、次の参府の際に完成した作品を引き取っていたことがわかった・・・

それは、1817年から1823年にかけて、オランダ商館長を務めた**ヤン・コック・ブロムホフ**が発注し、次の参府で商館長を務めたた**ヨハン・ヴィレム・デ・ステュルレルが持ち帰った25点**で、これはデ・ステュルレルが商館長を務めた後、フランスに移住し他界した後、フランス国立図書館に寄贈されている。そしてもう一つは、1826年4月にオランダ商館長の江戸参府に随行し、オランダ商館の医師として滞在した**フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト**(1796～1866年)が持ち帰った、北斎の「**日本風俗画**」の15枚・・・

それ以外にもシーボルトは、植物学はもちろん地理学や工芸品、日用品など、様々な分野から大量のコレクションを収集し、シーボルト事件前に、バタビア(現・インドネシアのジャカルタ)経由で、オランダ本国に運び込んだ。そして「日本風俗画」の作品15枚は北斎と弟子の北溪も手伝ってオランダ画紙に描かれ、当時は綴りの画帖に仕立てられていたが、1枚ずつ切り離され、オランダ・ライデンにあるオランダ国立民族学博物館とパリのフランス国立図書館に分散、収蔵されている。また、絵を学ぶ際に用いる教材を絵手本と云い、元々、絵手本は師から弟子へと肉筆画で伝えられたが、北斎は、肉筆画で絵手本を渡すには、弟子の数が(孫弟子も含めて200人に近いといわれる)あまりにもおすぎて、大量に摺り版本として集約し刊行した。これが、北斎の代表作として有名な「**北斎漫画**」で、シーボルトが集めた1セットが、発売時に付けられていた“袋”まで含めてオランダ国立民族学博物館(現：**シーボルトハウス**)に大切に残されていた・・・

そして、幕府の門外不出と云える「**武器・武具図帖**」紙本著色1冊がオランダ国立民族学博物館に収蔵され、北斎の作と云われているが、鎧や甲冑、鉄砲など、風俗画と同じようにオランダ画紙に詳細に描かれ、淡い彩色が施されており「江戸の友人の作」と記されている・・・

そして、絵の売買で北斎とオランダ商館長と医者＝シーボルト?の記述が残っている・・・

[日経ビジネス] 北斎とシーボルトの交流、そして新発見の屏風(名古屋市美術館 学芸課長 神谷浩氏)

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/life/20071217/143204/>

神谷氏は「**古画備考**：こがびこう」の記事から・・・北斎はカピタンと彼に同行してきた医者とのあいだでの絵の売買における場面で、カピタンの約束通りの150金の支払に対し、医者が半額の75金に値切ってきて、北斎が腹を立ててる記述で、医者＝シーボルトではないかと指摘されている・・・

そしてこれらの絵は、西洋風の影などの陰影や遠近法が使われている。元々、日本の絵には影などの陰影は余り見当たらず、皆無に等しい。当時の浮世絵においても、グラデーションはあっても、影無しの平面的な画面処理で出来上がっている。にもかかわらずこれらの絵は西洋風の影の技巧が用いられ、北斎の三女・お栄(**葛飾 応為**：かつしかおうい)が描いた、年代ははっきりしないが同時代の「**吉原格子先の図**」は陰影はもちろん逆光の絵となっている。これら総ては北斎工房の作品と云われ、西洋風の絵になっているのは、オランダ商館長が依頼する時に何か西洋のサンプルを見せて「こんな風に・・・」と支持していたのではないかと考えられるし、北斎としては影がある方が西洋人にうけるのではないかと考え、おそらく西洋風の絵を参考にしている 描いたとも思われる・・・

美は有史以前より国境なき、ボーダレスな世界を形成している・・・

例えば、レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図が西洋諸国に写実画としての正確なデッサンとして浸透したり、江戸の浮世絵が日本の焼き物の包み紙などでヨーロッパに伝わり、フランスの印象派に影響を与えた様に、江戸幕府の長い鎖国政策においても、抜け荷や御禁製の品や書物など、思いもよらない物を通し、感性はいろんな国を経て輸出入を繰り返し、国境なき旅をしていた・・・

北斎工房に見られるような、西洋的な技法で描かれた絵は、北斎以前の安永3年(1774年)ドイツ人医師クルムスの医学書"Anatomische Tabellen"のオランダ語訳「ターヘル・アナトミア」を杉田玄白が翻訳した書「[解体新書](#)」あたりの、人体デッサンや詳細な細密画などからまぎれ込んできたと言われている。そして北斎が師と仰ぐ西洋かぶれの洋風画家・[司馬江漢](#)(しばこうかん:1747~1818年)が描いた静岡県立美術館蔵の(銭湯などに描かれた様な富士山の絵)「[駿州薩陀山富士遠望図](#)」などや、[亜欧堂田善](#)(あおうどう・でんぜん:1748~1822年)や、秋田蘭画と呼ばれる一派を形成した[小田野直武](#)(おだの・なおたけ:1750~1780年)などに見られる様に油彩画や銅版画が何かにまぎれこみながら、この時期にはプロの絵師に浸透し、北斎も1804~1818年頃の「[ひらがな落款洋風画](#)」と呼ばれている、石垣模様の額縁風の枠をもった一群の洋風画を意識した「[くだんうしがふち](#)」「[たかはしのふじ](#)」「[おしをくりはどうつうせんのみず](#)」などの作品を残し、西洋の美術的な情報を集め、西洋画法を体得し、鎖国時代であっても西洋の美に一番近い画家ではなかったかと思われる・・・

そして時代は・・・

老中・松平定信による寛政の改革(1787~1793年)が始まり、経済不安から犯罪も増加し、凶悪化していく。池波正太郎原作「鬼平犯科帳：TV主演・中村吉右衛門」鬼の平蔵と呼ばれた[長谷川平蔵](#)が火付盗賊改方の長官となったのは1787年(天明7年)~1795年(寛政7年)であり、浮世絵師も寛政の改革で、歌麿は奉行所の摘発を受け、手鎖50日が申し渡され、出所後の1806年(文化3年)に54歳で亡くなり、版元の[蔦屋重三郎](#)も財産を半分没収されるという処分を受けているが、定信の死後、時代は[文化文政年間](#)(1804年~1829年)を迎え、江戸も華やかな輝きをみせた・・・

そんな、文政11年(1828年)8月にオランダ船ハウプトマン号は嵐に遭って座礁し、その荷箱の中から、御禁製の品が続々と発見された。幕府隠密だった千島樺太探検家・間宮林蔵は職務にしたがって、シーボルト達が日本地図を海外へ持ち出した件について幕府に密告。幕府天文方・書物奉行の高橋景保ほか十数名が処分され、シーボルトは国外追放のうえ再渡航禁止の処分となり、世に云う[シーボルト事件](#)が起こる・・・

偶然にも北斎の絵はシーボルト事件前にバタビア(現・インドネシアのジャカルタ)経由で、オランダ本国に運び込まれていたため、北斎はあわよく難を逃れている。そしてシーボルト事件後、摘発されそうになった北斎は、西洋かぶれの絵はやめ、西洋風の遠近法は利用しつつ、1831年(天保2年)頃にペロ藍(ペロリン藍とも呼ばれ、当時西洋から伝えられた新しい鮮やかな色彩の青色顔料：プルシャン・ブルー)を使い「[富嶽三十六景](#)」を刊行し爆発的なヒットをとばす。しかしそれも目立ち過ぎと悟り、1834年(天保5年)~1835年(天保6年)にかけ、縁戚の者の墓がある西浦賀に身を潜め幕府役人から身を隠している。そして江戸幕府も、貨幣経済の発達に伴って逼迫した財政の再興は其後も衰えをみせ、北斎が潜居後、江戸へ戻った頃は、老中・水野忠邦の天保の改革(1830~1843年)で、厳しい奢侈禁令と風俗取締令が掲げられ、[浮世絵](#)は、美人画はもちろん、役者絵、風俗画まで描いたり刊行したりすることが厳しく禁じられ、風景画や花鳥風月へと題材を変え、[歌川広重](#)は天保4年(1833年)「[東海道五十三次](#)」を発表。今も世界の人達を魅了する、鮮やかな青の藍色(インディゴ)の「ヒロシゲブルー」で北斎と対抗しながらも、華やかだった時代の寵児・浮世絵は時の流れに埋没して行き、時代も混沌としながら、慶応3年(1867年)大政奉還で江戸幕府も終焉する。しかし、北斎や広重はもちろん、歌麿、写楽などの浮世絵たちは、その後も旅をして、パリの印象派に多大な影響を与える事になる・・・

江戸時代の文化文政(化政文化)を駆け抜けた画狂人・[葛飾北斎](#)は、門人の数は孫弟子も含めて200人を抱え、[全15編の「北斎漫画」](#)図数は4,000図とされる版本(彩色摺絵本)を残し、改号すること30回、転居すること93回、森羅万象を描き、生涯に3万点を超える作品を残し・・・

「人魂で行く気散(きさん)じや夏野原」(人魂になって夏の原っぱにでも気晴らしに出かけようか)

と、辞世の句を残し、嘉永2年(1849年)[90歳の生涯](#)を終えた・・・

そしてシーボルトは、「江戸の友人? (北斎)」の死後10年をへて、1859年(安政6年)息子 [アレクサンダー・フォン・シーボルト](#) (12~13才)と共に再び来日し、1862年(文久2年)に帰国後の1866年(慶応元年)ミュンヘンで70歳の生涯を終える・・・

その時、日本は1866年薩長同盟→1867年大政奉還→徳川幕府は終わりを告げ、明治維新の幕が切って落とされ、この国は西歐化の道を歩み始めた・・・

(以下・主要参考文献↓・注：一部本文中にリンクさせています)

葛飾北斎 日本橋本石町長崎屋 (早稲田大学図書館)

http://www.wul.waseda.ac.jp/kosho/chi05/chi05_3828/

<http://ja.wikipedia.org/wiki/長崎屋源右衛門>

葛飾北斎も描いている「長崎屋」オランダ商館長一行が江戸参府をした際の定宿・・・

・ http://www.pref.nagasaki.jp/tokyo/hirakawatyo_vol7.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/カピタン>

長崎出島のオランダ商館長が江戸に出向いて献上品の呈上と、将軍への拝礼を行う・・・

<http://www.yushodo.co.jp/pinus/56/forum03/katagiri/p02.html>

オランダ宿である長崎屋、これは現在、JR新日本橋駅の4番出口を出たところ・・・

<http://www.yushodo.co.jp/pinus/56/forum03/katagiri/p05.html>

浮世絵の構造(筆者：小林 忠)/シーボルト注文の「北斎画、

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/art/web_library/author/kobayashi/structure_of_ukiyo/33.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ヤン・コック・ブロンホフ>

江戸東京博物館 | 特別展「北斎-ヨーロッパを魅了した江戸の絵師-

<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/kikaku/page/2007/1204/200712.html>

Holland Go ハーグ→シーボルトハウス

http://www.holland.or.jp/nbtc/HG_Haag-kinkou-sieboldhuis.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/古画備考>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/葛飾応為>

<http://www.emakijaya.com/2008/11/post-43.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/司馬江漢>

駿州薩陀山富士遠望図 | 1804(文化1)年 | 絹本油彩 額装 78.5×146.5cm

http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/_archive/collection/item/J_93_497_J.html

「くだんうしがふち」1804(文化元)年

<http://www.yamamoto-museum.com/news/index.php?UID=1245912598>

「たかはしのふじ」

http://www.muian.com/muian08/08souri_youfuu03.jpg

「おしをくりはとうつうせんのみず」1804-18年

<http://bluediary2.jugem.jp/?eid=1236>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/化政文化>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/シーボルト事件>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/葛飾北斎>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/富嶽三十六景>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/北斎漫画>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト>

(注意：本文中のリンクがPDFおよびePubではうまく動作しない場合があります)

